

現在の子どもの様子		ねらい	行事	自己評価
<p>・梅雨明けも早く、暑い日が続くが元気に過ごす。また、プール遊びや水遊びが十分楽しみ去年まで水が苦手な子どもは顔に水がかかっても泣かずに参加していた。泥遊びも子ども同士で考えながら道や川を作っていた。また、暑さによる疲れで体調を崩す子どももいたが、元気に過ごしていた。</p> <p>・プールなど準備や身支度の流れがわかるようになり、スムーズに行動できるようになった。また、プールでの約束事やルールを守って活動することができた。</p> <p>・子ども同士で小さなトラブルはあるものの、少しずつ話し合って解決するようになってきた。</p>		<p>・保育者や友だちと一緒に、夏ならではの開放的な遊びを楽しむ。</p> <p>・生活に必要なことを、自分なりに考えて行う。</p>	<p>・避難訓練 (16日)</p> <p>・おはなし会 (17日)</p> <p>・夏祭り (23日)</p> <p>・英語 (24日)</p> <p>・幼児集会 (29日)</p> <p>地域との関わり</p> <p>・訪問に対して挨拶したり、プール解放時に声をかけて関わりをもつ。</p>	<p>・厳しい暑さが続いたが、こまめに水分補給を促し熱中症など体調を崩すことなく元気に過ごせた。プールや水遊びでは、水面に顔をつけることが苦手な子どももいたが、友だちや保育士からの声援で自信になり、水を嫌がらずそれぞれのペースで水に慣れて楽しんでいった。プール活動だけでなく今後の活動でも安全に取り組みるようにしていきたい。</p> <p>・お盆中は合同保育で過ごし異年齢児との関わり一緒に活動を楽しむことができた。夏休み明けに不安定になる子どももいたが、友だちとの関わることで笑顔が見られた。子どもの気持ちに寄り添いながら安心して過ごせるようにしていきたい。</p> <p>・夏祭りは、全員参加ができどの子どもも楽しめることができた。</p>
内容	環境構成	保育士の配慮		取り組みの状況と保育士の振り返り
<p>養護(生・情)教育(健・人・環・言・表)</p> <p>・水の危険性を知り、プールでの決まりを守って安全に遊ぶようにする。</p> <p>・夏の一番暑い時期の生活の仕方を知り、快適に過ごすようにする。</p> <p>・全身を使って水を楽しみ、水の心地よさを感じる。</p> <p>・自分のプール遊びでの目標に向かって取り組む中で、友だちに励まされたり、共に達成感を味わい自信に繋がるようにする。</p> <p>・身近な夏の虫(カブトムシやセミ)に興味を持って観察したり世話をしようとする。</p> <p>・自分の気持ちや困っていることや感じたことを言葉で伝えようとする。また、経験したことを保育者や友だちに話したり、聞こうとする。</p> <p>・みんなで歌ったり、踊って身体を動かしたりして、表現することをしようとする。</p> <p>・夏祭りに向けて、異年齢との活動を楽しみにしていく。</p>	<p>・水遊びの約束の再確認をし、自分で考える機会をつくる。</p> <p>・休息の必要性を伝え、十分な休息が取れる場所や時間を確保する。</p> <p>・みんなで楽しめるゲームや、友だちと触れ合う遊びを用意する。</p> <p>・一人一人の目標を明確にし、友だちと応援し合う場をつくる。</p> <p>・夏の虫や自然に関する絵本や図鑑を用意しいつでも見られるようにする。また、飼育ケースを用意し子どもたち飲みやすい場所に置く。</p> <p>・話しやすい雰囲気や発表しやすい環境にしていく。</p> <p>・歌ったり踊ったりしながら、身体を動かして、音楽に触れる環境をつくる。</p>	<p>・慣れたところに水遊びの事故の危険性が高まるので、子どもたちの行動を見落とさず、安全に過ごせるようにする。</p> <p>・活動のバランスを考慮する。また、体調の変化に注意をし、一人一人の健康状態を観察する。</p> <p>・自信を持って活動に取り組む姿が増えているので、引き続き友だちと励まし合ったり、認め合う場をつくってつながりやを深めたり自信に繋げていく。</p> <p>・子どもの発見や驚きに共感し、継続して世話ができるようにする。</p> <p>・話を聞くときの姿勢を繰り返し知らせ、自分で意識したり気づけるようにする</p> <p>・話をする側と聞く側を整理し、どちらも満足できるような対応をする。</p> <p>・保育者も一緒に楽しんで歌ったり、身体を動かして楽しさを伝え共感していく。</p> <p>・夏祭りを楽しく参加できるように、保育者で話し合い十分に準備や企画をすすめていく。</p>		<p>・猛暑が続いていたためこまめな水分補給を促しながら、子どもたちの健康管理に留意した。また、休み明けに不安定になる子どももいたが、気持ちを受け入れながら少しずつ元の生活に戻れるようにしていく。また、休息の必要性を伝えゆっくり過ごせるようにすることで子どもたちが安全に過ごせた。来月は夏の疲れなど体調が崩れやす時期のため、急な体調の変化に気を付けていきたい。</p> <p>・プールでは、子ども同士で頑張る姿を見せ合ったり、認め合う機会をつくることで、挑戦する気持ちが芽生えたり、自信につながる様子が見られた。また、異年齢児でしゃぼん玉や石けん遊びを通して小さい子に優しく関わり、一緒に泡をつくりや互いの体に塗ったりして楽しむことができた。次回は色水をつくって楽しめるように子どもたちと活動を考えていこうと思う。</p> <p>・猛暑の為、なかなか戶外遊びが難しくプール以外では外遊びを控えたことが多かった。夕方など涼しくなった頃に園庭遊びをし、鉄棒など体を動かすことを楽しめるようにした。また、セミ探しを楽しんでいたのも、虫かごを用意したり図鑑も見られるようにする。これから、散歩へ行くことが増えるので、お出かけバックを作って、秋の虫や植物を見つけられるようにしていきたい。</p> <p>・夏休み明けの出来事を発表する場をつくると、子どもたちも喜んで話すことができた。引き続き、相手の話を最後まで聞くことの大切さを伝えたり、子どもたちが興味の持てるような語り方を心掛けていけていきたい。</p> <p>・自分の気持ちを伝えることが苦手な子どもも、保育士が耳を傾けてその子のペースで伝えられるように配慮した。また、子どもの気持ちに寄り添っていきたい。</p> <p>・子どもたちの気に入っている体操や歌を楽しむことで、遊びの中でも自然に口ずさむ姿が見られた。幼児集会で保育士が行った色水遊び(ミックスジュース)が好評で、集会後も真似をして遊んでいた。これからも楽しい遊びを考えて子どもたちと楽しもうと思う。</p> <p>・夏祭りでは、事前にお祭りの話をしたり、ちょうちんづくり異年齢児の交流も楽しみ盆踊りやヨーヨーなど夏ならではのイベントを楽しむことができた様子。</p>
<p>食育</p> <p>・食事のマナーを意識しながら、意欲的に食事をする。</p> <p>・いなりご飯を作って食べる。</p>	<p>・野菜の絵本や図鑑を置き、食材に興味を持てるようにする。</p> <p>・楽しんで取り組めるよう、一人一人の器やスプーンを準備する。</p>	<p>・箸の使用は個々の進み具合を見ていく。また、姿勢が悪いとこぼすなどを知らせていく。</p> <p>・栄養士と事前に打ち合わせし確認する。</p> <p>・クッキングの感想を言える場をつくる。</p>		<p>・収穫した野菜は給食に加えると、苦手な子どもたちも進んで食べようとしていた。図鑑や絵本で引き続き食に興味を持てるようにする。</p> <p>・クッキングでは、煮た油揚げに酢飯を詰めた。いつも食べているおにぎりよりも自分で酢飯を詰めておにぎりさんはよく食べていた。</p>